

干支のエトセトラ（亥編）

Index

- 1 干支の由来
 - 2 亥（いのしし）に関する話
 - 3 亥（いのしし）にちなんだスピーチ事例
-
-

1 干支の由来

1.1) 干支の起源

年の瀬が迫ってくるとよく話題に上るのが、次の年の干支（えと）に関することです。一般的に、巳（み）年や申（さる）年など、動物の名前を当てはめたものが干支であると認識されています。

しかし、よく考えてみると「干支とは何か？」について、はっきりと答えられる人は意外と少ないものです。本稿では、あまり深く知られていない干支について、分かりやすく説明していきます。

干支（えと＝かんし）は、古代中国に起源を持ち、年月や時刻、方位などを表す呼称とされる言葉です。

干支の「干（え）」は10種類あり、十干（じっかん）といいます。

（図表1）【十干】

甲（こう）	乙（おつ）	丙（へい）	丁（てい）	戊（ぼ）
己（き）	庚（こう）	辛（しん）	壬（じん）	癸（き）

これに陰陽五行思想を結び付けて、それぞれ陽を意味する兄（え）、陰を意味する弟（と）を当てて、次のようにも読みます。

（図表2）【陰陽五行思想と結び付けた読み方】

甲（きのえ）	乙（きのと）	丙（ひのえ）	丁（ひのと）	戊（つちのえ）
己（つちのと）	庚（かのえ）	辛（かのと）	壬（みずのえ）	癸（みずのと）

一方、干支の「支（と）」は古代中国の天文学で、木星の位置を示すために天を十二分した呼称を起源にしており、十二支といいます。

（図表3）【十二支】

子（し）	丑（ちゅう）	寅（いん）	卯（ぼう）	辰（しん）	巳（し）
午（ご）	未（び）	申（しん）	酉（ゆう）	戌（じゅつ）	亥（がい）

さらに、十二支を動物に当てはめて次のように呼ばれるようになったのです。

（図表4）【動物に当てはめた読み方】

子＝ね（鼠）	丑＝うし（牛）	寅＝とら（虎）	卯＝う（兎）
辰＝たつ（竜）	巳＝み（蛇）	午＝うま（馬）	未＝ひつじ（羊）
申＝さる（猿）	酉＝とり（鶏）	戌＝いぬ（犬）	亥＝い（猪）

中国では、古く殷（いん）の時代（紀元前16世紀～紀元前11世紀ごろ）から、この十干十二支の組み合わせで年月日が数えられたといわれています。これが干支の起源です。

サンプルレポート

本レポートは、サクセスネットで公開している
ビジネスレポートの一部を公開したサンプルです。
サクセスネットサイトにログインした後、全文を
閲覧することができます。